

西日本支店長会

Branch

2018.12 No.441

Branch
西日本支店長会

2018年12月 No.441

西日本支店長会事務局

〒810-8721 福岡市中央区天神1-4-1 西日本新聞社 西日本会事務局内
TEL092(711)5190 FAX092(711)5199 e-mail:shitenchokai@nishinippon-np.jp

事務局だより Secretariat newsletter

会員異動



株式会社日本設計
九州支社長
清水 里司氏
(広島県出身)

前任者 森浩氏は九州支社理事へ



株式会社鴻池組
執行役員九州支店長
興梠 博己氏
(宮崎県出身)



味の素AGF株式会社
九州支社長
西澤 寛喜氏
(埼玉県出身)



株式会社
富士通九州システムズ
代表取締役社長
石井 雄一郎氏
(東京都出身)



住友ナコフオークリフト販売
株式会社
九州統括室長 兼 九州支店長
中村 功氏
(神奈川県出身)

前任者 本村保夫氏は取締役東日本統括支店長=東京都=へ



アドソル日進株式会社
社会システム事業部 副事業部長
兼 九州支社長
田中 治氏
(長崎県出身)

新入会員



ホテルモンテ株式会社
ホテルモンテ ラ・スール福岡
常務取締役総支配人
尾中 誠氏
(奈良県出身)

●所在地/福岡市中央区大名2-8-27
●電話/092-726-7111



東急リパブル株式会社
福岡支店長
齋藤 悦弘氏
(茨城県出身)

●所在地/福岡市中央区天神2-14-2
福岡証券ビル3階
●電話/092-720-2109



事業構想大学院大学
福岡校 福岡事務局長
山崎 敏邦氏
(福岡県出身)

●所在地/福岡市中央区天神2-14-8
福岡天神センタービル7階
●電話/092-737-8411

西日本会2019新年祝賀会

日 時:1月21日(月) 18時30分~20時頃
会 場:ホテルオークラ福岡 福岡市博多区下川端町3-2

西日本支店長会・パートナーズクラブ2月合同例会

日 時:2月8日(金) 12時~13時30分
講 師:日本銀行福岡支店長 宮下 俊郎氏
演 題:未定
会 場:天神スカイホール

第8回西日本会合同例会

日 時:3月25日(月)
例会・講演会 16時~17時40分 懇親会 17時50分~19時頃
講 師:元外交官・作家 佐藤 優氏
演 題:未定(平成をテーマ)
会 場:グランドハイアット福岡 福岡市博多区住吉1-2-82

「京都・醍醐寺-真言密教の宇宙-」特別鑑賞会

日 時:2月27日(水) 15時~17時
会 場:九州国立博物館 太宰府市石坂4-7-2



「時雨の贈り物」 撮影:酒井 理生(福岡市在住)

明治維新から150年、 現在そして未来を考える ～西郷隆盛を生んだ薩摩～

1978年10月に発足した西日本支店長会。西日本新聞社内に事務局を置き、福岡都市圏に支社や支店を置く企業に交流の場を提供するとともに、新聞社の情報提供機能を活用してもらおうとスタートしました。

西日本支店長会10月例会は、西日本支店長会設立40周年記念特別例会として、歴史家・作家の加来耕三氏を講師として招きました。「明治維新から150年、現在そして未来を考える～西郷隆盛を生んだ薩摩～」と題して、明治維新が起こった真の理由や西郷隆盛の人物像に触れながら、歴史を捉え直し、これから進むべき道について示唆に富む話をされました。講演を要約して紹介します。(講演日:2018年10月11日)



歴史家・作家
か く こう ぞう
加来 耕三氏

**ペクサン砲に
衝撃を受けた日本人**

本日の講演において、経営に携わっている皆さまに、ぜひ聞いて、実践していただきたいのは、どうすれば歴史を具体的に仕事や日常生活に活用していただけるかということだと思います。

歴史という学問は、実に使い勝手のいい学問です。AがBになる、BがCになる。結果だけ追い掛けると、何一つ疑問が湧きません。結果だけの歴史を一生懸命なぞっても、混乱する時代のヒントにはなりません。なぜそうなるのか。もしもそうでなければどうであったのか。立ち止まって判断する人だけが歴史を活用できるのかもしれない。

演題にあるように、今年には明治維新から150年です。慶応4(1868)年、旧暦9月に明治に改元されてから150年となります。

では、明治維新はどこから始まったのでしょうか。歴史を勉強している人は、だいたい答えが共通しています。嘉永6(1853)年6月3日。この年、米国の東インド艦隊の司令官であるペリーが、日本へやって来ました。ペリー来航が明治維新の引き金になった、という考え

方は以前からありました。

では、黒船が日本にやって来て、どうして日本人は腰を抜かしたのでしょうか。4隻で来たからでしょうか。ちなみにペリー提督が来る7年前に、同じ米国の東インド艦隊のビッドル提督が、2隻の黒船で浦賀に來ています。船が大きかったからでしょうか。当時、千石船が日本では一番大きく、100トでした。ペリーが乗ってきた軍艦は、2450トです。約25倍の船を見たからでしょうか。

当時、幕府はオランダという交易国を持っていました。バタビアという植民地を介して幕府は、『オランダ風説書』という国際レポートを、毎年オランダからもらっていました。世界情勢が全てその中に書いてあり、嘉永5(1852)年の『オランダ風説書』には、ペリーの年齢から、何をしに日本に来るのか、全部載っていました。さらに、軍艦4隻の艦長の経歴まで。日本の幕閣、老中や若年寄は全て知っていたのです。

さらに日本には、2年前にジョン万次郎が米国から帰ってきています。彼は米国で教育を受けた人間であり、米国がどういう国であるかを細かく薩摩藩主・島津斉彬にも、土佐藩主・山内容堂にも、幕閣



いのちにアリガト④9

あつという間に今年もあと少し

毎日が慌ただしく過ぎていきますが
久し振りのお散歩で
ふと足元に目をやると
あらまあなんて可愛らしいのでしょう
彼女の清らかな透明感が眩しくて

なんだか恥ずかしくて
目を合わせられない気がしてしまいました
決して主張したり押し付けなくても
ほんとうのことってパワーが備わっていて、
相手が自然に感じてしまう物なのだろうなあ
と思いました
たまには歩みを緩めてホッと息つく時間に
色いろ気がつくものなのだろうなあ

皆様素敵な年末年始をお過ごし下さいね

今年も一年有り難うございました

そして一年頑張ってくれた私の心身にも感謝

関わって下さった全ての
人へ物へ自然へ環境へ感謝

又新たな一年を感謝から始めたいと思います

(大國チオナ)

Branch

2018
12
No.441

INDEX

例会Report

西日本支店長会設立40周年記念特別例会
「明治維新から150年、現在そして未来を考える
～西郷隆盛を生んだ薩摩～」
歴史家・作家 加来 耕三氏 …………… 2～7

西日本支店長会設立40周年記念
特別例会 懇親会 …………… 8

「明太子はなぜ博多の名産品として
広まったのか?」
ふくや 代表取締役社長 川原 武浩氏 …………… 9～13

特別例会 懇親会 …………… 14

第8回県外視察研修「壱岐市」 …………… 15～18

2018秋の西日本新聞ゴルフ会 …………… 19～20

九州人奔る …………… 21～22

事務局だより …………… 23

にも話をしています。日本はことごとくの情報を知っていたにもかかわらず、何を恐れて明治維新がスタートしたのでしょうか。

日本人の歴史認識は、分かっているようで、実は何も分かっていないのです。ペリーが、来年もう一回来るからといって砲を上げるまで、日本中でパニックになった形跡はありません。問題は帰るときに起きました。真つ直ぐ帰ればよかつたペリーの船が、品川沖を測量しながらある地点まで入ってきました。問題は、このある地点にあったのです。

日本は、ペリーの艦隊が搭載していた最新兵器を識別することができました。彼らはペクサン砲を搭載していたのです。ナポレオン戦争で開発された爆裂弾です。当時の日本人が知っていた大砲の弾は、徳川家康が大坂城を撃つて以来、変わっていません。弾そのものは熱せられて飛ぶのですが、爆裂はしません。問題は飛距離でした。日本の大砲は400メートルで、ペクサン砲は350メートルから375メートルなのです。

日本の有識者はペクサン砲を見ているのです。とんでもないものを積んできたな、と威力も知っていました。ペリーの艦隊が品川沖のある地点に来たときに、日本の有識者は、一斉に顔色を変えたのです。

封建制、すなわち統一国家という概念がない中で、清国はアヘン戦争に巻き込まれていったのです。省、州を国家と考える清国では、南京が落ちそうだといいつつも、戦っているのは南京の将兵だけです。首都の北京が陥落しそうだといいつつも、戦っているのは北京の将兵だけだったのです。だから、負けました。

この負け方、封建制の原理が、実は日本にもそのまま当てはまったのです。日本の封建制を歴史学では、幕藩体制と言います。江戸時代に「日本人」は存在しません。江戸に住んでいる人は江戸人、鹿児島は薩摩人、福岡にいる人は福岡人です。その当時は、日本人という概念がありませんでした。

同じことが起こったのです。文久3(1863)年に、薩英戦争がありました。イギリス一国が攻めてきたのに、迎え撃つたのは薩摩一国です。その翌年の8月、下関で列強4カ国による長州藩への砲撃戦が行われました。四つの国が攻めてきたのに、立ち向かったのは長州藩だけです。近隣の藩の武士が、徒

なぜでしょうか。江戸城の本丸に届くのです。一撃で、江戸城が直撃されるかもしれないというのに、遮蔽物が何もありません。お台場は建設途中、蒸気船にいたっては一隻も持っていません。1発撃たれたら、江戸城の本丸がふつ飛んでしまうことが分かつたとき、初めて日本人は腰を抜かさんばかりに驚いたのです。日本人の物事の対処は、今も昔も変わるところがありません。自分の尻に火が付かないと理解できないのが、私も含めて日本人の悲しい宿命です。

ただ、日本人の想像力は優れていました。もし、ペクサン砲の1発が撃たれたらどうなるのか。そのことが具体的にイメージされたとき、初めて日本人は明治維新に走ることを考えたわけです。皆さん、何となく知っているというのは、何も知らないよりも罪が深いのです。何も知らない人間は、一から勉強するのですが、何となく知っていると認識している人間は、あらかじめ勉強しようとはしません。ペリー来航の具体的な衝撃は、このペクサン砲にあつたのです。日本人はそのことを忘れ、あらためて調べることもせず、明治維新から150年ということだけを覚えていきます。なぜ明治維新に至つ

たかについては、プロセス、スタート時点、命題などを全く考えることをしません。これで歴史が活用できるのでしょうか。

アヘン戦争が維新の引き金

歴史を使う場合に一番やってはいけないのは、結論で物事を考えることです。結論を先に持つてくるときに、そこから新しい発想が出てくるかといえます。何一つ疑問が湧いてきません。一つ一つ聞かれると答えられないのに、明治維新は1868年だ、とだけ覚えて分かつた気になつても、それは歴史を活用することとは違う世界です。

明治100年から明治150年。この間に、歴史学では新しい定説が確立しました。その一つが、明治維新のスタートはペリー来航よりも13年遡つた天保11(1840)年だとする見解です。今、歴史学を専攻する10人のうち9人までは、間違いなくこの年を明治維新のスタートにするはずで、日本史の年表を見ても、日本では何も起こっていませんが、実は明治維新につながる出来事が生じていたのです。この年に隣国である中国、当時の清国がイギリスとアヘン戦争を起しました。この戦争の結果が、明治

アヘン戦争が起こり、南京条約が締結された直後に、日本は異国船打払令をやめています。清国ですら勝てなかつた欧米列強に、どうして日本が勝てるのでしょうか。最初から開国しかなかったのです。国を豊かにする以外に、列強の植民地化から逃れることはできません。問題はその封建制をどう打破するか、でした。明治維新における命題はまさに、これだったのです。

その答えの一つが、島津斉彬の出した見解です。国民というものをつくつて、国民一人一人が国を守るという概念を持たない限り、独立の尊厳を守ることはできないというのが、彼の結論でした。ここから明治維新に走つていくことになるわけです。

おそらく三百諸侯の中で、最高に頭脳が優れた人物だと思えます。斉彬だからこそ、西郷隆盛という人物を使えたのでしょう。

明治維新を結論だけで見ても、何も学ぶことはできません。明治維新の最大の目標は、中央集権化を成し遂げることだったのです。経営でも同じことですが、歴史で決してやってはいけないことがあります。全部終わったその後で、

維新の引き金となつたのです。アヘン戦争で、なぜ清国は負けたのでしょうか。清国の人口は3億5000万人、イギリスは1000万人。軍隊の規模は、清国は陸軍だけで88万人。イギリスが投入した軍隊は延べにして2万人です。つまり、44対1です。

アヘン戦争が起きたのは、貿易の均衡を欠いたからでした。中国のお茶をイギリス人が輸入して飲みながら、清国はイギリスから何も買おうとはしません。大国である清国は一国ですべて完結している、イギリスから買うものがなかつたのです。それで非合法的なアヘンを清国に流し込み、200万人がアヘン中毒になりました。

アヘン戦争に負けたことも、アヘンが清国内に広まつたことも、日本が明治維新のスタートを切らなければならなくなつたことも、テーマは一つ。封建制がすべての原因でした。

アヘンが清国に入ってきました。それを放り出したのは良かったのですが、清国はあまりにも国が大き過ぎました。国という概念を持つことが出来ません。省、あるいは州がイコール国家でした。海に放り込めばよかつたのに、隣の省、州にアヘンを投げたのです。投げられた

ああすればよかつた、こうすればよかつたと考えることです。これは通りません。アフリカ、アジアの多くの国の中で、独立の尊厳を守ることができた唯一の国は、日本です。もし薩長同盟から王政復古の号令、鳥羽・伏見の戦いにおいて、今の歴史の流れが無かつた場合、日本は日清、日露を戦う以前に、欧米列強の植民地になつていたでしょう。

明治維新における命題は、欧米列強の植民地政策を逃れるということでした。そのためにどうするかといえ、中央集権化です。その方法論を巡つて、幕府を中心にするべきか、幕府を外して考えるべきか、この二つの考えが争いました。

島津斉彬が認めた西郷隆盛

西郷隆盛が活躍したのは、まさにこの幕末です。西郷は庭方役に登用される直前まで、島津斉彬に一度も会っていません。

皆さん、歴史を学ぶときに、今の価値意識を持ち込まないでください。今では紙は、実に簡単に手に入ります。が、江戸時代に、紙に文章を書くというのは、極めて高価なことでした。



島津斉彬

アヘン戦争において、一番最初にこの問題点に疑問を持ったのは林則徐という人物です。彼はアヘン戦争の開戦のときの指揮官でしたが、途中左遷されて飛ばされてしまいました。そのときに清国が負けている理由を考えただけですが、理由が分からなかつたのです。それまで自分が調査した資料を全部、歴史家である魏源という友人に託しました。魏源は150巻に渡るレポートを書き上げました。どこに問題があるのか、封建制にすべての問題があることを突き止めたのです。が、清国でこれを読んだ人は、1人もいません。一番の優等生といわれた李氏朝鮮でも、このレポートを読んだ人はいません。ひたすらに読んだのが、当時30代半ばの島津斉彬であり、鍋島勘次郎であり、



西郷隆盛

一言で西郷の若いときを語れと言われたら、私はこう申し上げます。「空気の読めない人だった」と。西郷は10年間、一度も出世していません。郡方書役助という臨時職に就いたのですが、農家を回って農作の取れ高がどれだけあるのかを見るのが、彼の仕事でした。階級も給料も上がっていません。理由は、上役から嫌われていたからです。西郷は自分が正しいと思つたら、相手が上役であろうが文句を言うのです。本来なら、いつの間にか忘れ去られてしまうタイプなのに、西郷がそうはならなかったのは、島津斉彬がいたからです。

私は経営者に求められる資質には、探究心をあげます。物事をどこまで突き詰めて考えることができるのか、ということ。幕末の大名家たちに、「なぜ清国はアヘン戦争で負けたのか」と聞けば、ほとんど「イギリスの大砲と軍艦に負け」と答えたでしょう。たった1人

違う回答をしたのが、島津斉彬です。今の用語に直しますと、斉彬はこう言つたのです。「物理と科学で負けたのだ」と。その斉彬が認めたのが、西郷隆盛です。

なぜ、認めたのでしょうか。西郷は上司を弾劾するために、その上司に文句を書いたのです。出だしは有名で、その一通しか残っていません。「三百諸侯数あるけれども、薩摩ほど汚い国はない」。上司の上司に宛てた手紙を、最高決定権者の斉彬が読み、何と言つたか、「こいつは使える」

西郷が初めて江戸に行くときに、最初に休憩したところで、「ういえば西郷はどれだ」と斉彬が家臣に聞いています。それまでは、会つていません。横にいた人が指を指したら、その先に大男がいたのです。180ポンド、体重108キ。これは見栄えがします。へその曲つているところも買つて、西郷を庭方役に任命しました。庭方役というのは、西郷1人が選ばれたのではないのです。あなたは物理、あなたは科学と、それぞれ与えられた使命を達成するために、藩士は複数、庭方役に選ばれたのですが、西郷だけは目的がなかったのです。広い世界を斉彬に、初めて西郷は見せられたのです。

違ひがありました。

幕末の西郷は、人事を尽くして天命を待ちましたが、明治の西郷にはそれがありません。自分では何にもやらない、天に任せるのです。西南戦争が一番分かりやすいのですが、彼は指揮を執つていません。指揮をしたのは、人斬り半次郎と言われた桐野利秋です。

地に足が着いた常識を

日本人はなぜ、歴史を使えないのでしょうか。日本人だけが持つている英雄の条件をクリアすることができるからです。

戦国時代の中で一番人気があるのが織田信長です。幕末は坂本龍馬―この2人は、生まれた時代も、役割も、身分も違いますが、鏡で合わせたような一致があります。

歴史は飛躍をしません。しかし、物語の世界では人物が飛躍しま



織田信長

しかし、その後の西郷はどうだったのかと言いますと、江戸無血開城を果たした後から、西南戦争

西郷が実際に活躍するのは、いつか。40代になってからです。30代は島で過ごしています。最初に流された奄美大島は、流刑ではありません。生きてるのが知れたらまずいということで、藩がかくまつたのです。明治維新のころになると、実像を超えて西郷の虚像が大きく広がっていました。最大の理由は、彼の経歴が長かったからです。橋本左内、吉田松陰といった優秀な人々は数多くいましたが、ことごとく安政の大獄で殺されました。生き残つたのが西郷です。

そのことが西郷を、必要以上に大きく見せたのではないのでしょうか。奄美大島では、給料が出ていたのです。結婚して子どもを2人もうけています。刑罰でそんなことはできません。



島津久光

島津斉彬が急死し、斉彬の異母弟の久光に喧嘩を売つた西郷は、また飛ばされてしまいます。次は間違ひなく島流しでした。最初は徳之川勢に対して、信長は3000人弱で立ち向かいます。歴史学の見解は、常に一致していません。3000人の家臣は、信長と一緒に死にたいという覚悟を固めて、スタンプ切つたとして説明できません。

ところが、そう書いてある歴史小説を読んだことがあります。信長の人気が何によって作られているのかといえば、人物が飛躍する物語です。歴史の世界に最初から結果を持ち込まれては、何一つ学ぶことはできません。われわれは、そのことが分からないと歴史の世界から学べないのです。

同じことは坂本龍馬にも言えます。司馬遼太郎の『竜馬がゆく』を読み、これを男の生きる道だ、と言いつける人がいます。あれは小説の切り切りです。司馬さんが『竜馬がゆく』の種本にしたのが、『汗血千里駒』。これは明治10年代の後半に書かれた、坂本龍馬物語の第一号です。構成は、『信長公記』と全く同

われわれは過去に学習したことや経験したことを、復元する能力が持っています。しかし、見たことがない、やったことがないものはできません。ところがわれわれ日本人が描く英雄はことごとく、できもしないことを、いとも整然とやってのけるのです。

信長を戦国一の人気にしたのは、27歳のときの桶狭間の戦いでした。公称4万7,800人、実際には2万5,600人の大群の今

島、これは家老が決めたのですが、生ぬるい、生きて返すなどということ。沖永良部島に流されました。

西郷は勘違いをしたのです。島津斉彬の後継者は、西郷ではありません。西郷は愛弟子です。後継者の久光に対して、あなたは田舎者だと言つてしまうのですから、西郷はあそこで殺されても仕方なかつたはず。西郷という人物は、鹿児島以外からは出てこなかった人物でしょう。大久保利通も同じです。諸藩ごとごとく、優秀な人間、学問に優れた人間が上に上りました。しかし、薩摩藩だけは、勇気のある者が上がつてくるのです。この価値意識の違いが、明治維新を決しました。西郷が注目されるのは、まさにこの部分です。西郷を人間的に完成させたのも、2回目の島の生活でした。

沖永良部島には、西郷が入つていた獄舎が再現されています。上に屋根はありますが、周囲は格子。2坪の牢屋で、高さが180センチもなく、西郷は立ち上がることもできません。久光から追つて切腹の命がくだるだろうと、西郷は意識していたのです。彼は死を決意して、言われたままの生活をあえて自らに課しました。地元の役人が西郷に心服して、助けてやろうとしなかつ

川勢に対して、信長は3000人弱で立ち向かいます。歴史学の見解は、常に一致していません。3000人の家臣は、信長と一緒に死にたいという覚悟を固めて、スタンプ切つたとして説明できません。

ところが、そう書いてある歴史小説を読んだことがあります。信長の人気が何によって作られているのかといえば、人物が飛躍する物語です。歴史の世界に最初から結果を持ち込まれては、何一つ学ぶことはできません。われわれは、そのことが分からないと歴史の世界から学べないのです。

同じことは坂本龍馬にも言えます。司馬遼太郎の『竜馬がゆく』を読み、これを男の生きる道だ、と言いつける人がいます。あれは小説の切り切りです。司馬さんが『竜馬がゆく』の種本にしたのが、『汗血千里駒』。これは明治10年代の後半に書かれた、坂本龍馬物語の第一号です。構成は、『信長公記』と全く同



坂本龍馬



≡ 40周年を祝って懇親会 ≡

西日本支店長会設立40周年記念特別例会の懇親会は、石井敏西日本新聞社取締役の乾杯の発声で始まり、自身も2006～7年に西日本支店長会の会員であったことに触れ、会の発展を祈念しての乾杯でした。

講師の加来耕三さんも、最後まで参加会員と懇談していただき、会は一段と盛りまりました。加来さんは、「74名の方の名刺を頂いたのが最新の著書を皆に送ります」と微笑んでいらつやいました。

中締め挨拶は、会の幹事で、基礎地盤コンサルタント取締役顧問の田上裕さん。講演で強調された「歴史に学ぶ意義」は、自営業にもつながるところがあり勉強になったと語り、又、自身の異動による退会にも触れ、今後の盛会を祈つての挨拶となりました。



じものでした。人間が飛躍します。『汗血千里駒』は、龍馬は10代まで寝小便が治らなかつた。寺子屋に預けると、頭が悪く、行儀も悪い、一日でクビになった。箸にも棒にもかからないので、生活のために剣術を学ばせると、ある日、剣に天分が咲いた、ということです。

歴史学を学ぶときに、何が一番大切かと言うと、地に足が着いた常識をどれだけ踏まえることができるのか、ということだと思います。

一見、常識のごとく見える社会通念、習慣、風習をどれだけ見破ることができるのか。これが非常に難しいのです。頼るべきは常識ですが、疑ってかからなければならぬのも、一見常識のように見える社会通念です。その真ん中にあるのが、歴史学という学問なのです。

歴史に学び、未来を読む

を、持つべきです。ニュース報道にしても、真実の半分程度しか知ることができていないのです。

もう一つの、未発の発芽は、物事には前兆現象兆しがあるということ。日本人は前兆に気付くことができませぬ。同様に、過去に学ぶということをしませぬ。未来の方向だけを見ています。未来は、過去と現在をつなぐ線上にしか存在しませぬ。具体的な未来の全ては、実は過去の中にあるのです。

歴史学は科学です。歴史は繰り返します。このメカニズムを学んでいただくことにこそ、歴史に学ぶ醍醐味があるのです。

ほとんどの方は、そういう学び方をしません。未発の発芽を、日本のごとわざいに言い換えますと、「三つ子の魂百まで」でしょうか。人間はいかに努力し、学問的業績を挙げ、社会的功績を輝かしたとしても、生涯、生まれ育った根の部分は変えようがありません。真に他人が理解できるわけではありませぬ。理解できないという前提で、理解するという努力をすべきです。日本人は、これがまたできません。企業に置き換えますと、錯綜とした現実には巻き込まれたときこそ、企業は創業の理念に戻るべきです。創業の理念が社会性を持つ

限り、企業は決して倒産しません。ブレの部分、修正すればいいのです。世の中で一番たちが悪いのは、何が悪いのか分からないという現実です。具体的に分からないのなら、一つずつ潰していけば、必ず出口に出られるはずですが、「未発の発芽」は、そのことについて語った言葉です。

皆さま、まずは、歴史を疑ってかかつてください。感動的な作品に出合ったときに、感動した出来事がある作り話なのかを見極めていただきたいのです。

歴史学は答えを求める学問ではなく、プロセスを幾重にも考えることに価値があります。

われわれはどれほど意識しても、たった一度の人生しか歩むことができません。しかし、歴史の世界には無数のケーススタディがあります。なぜこの人は、このときに右に行ったのか、もし左に行ったらどうなっていたのか。歴史に学ぶためには、まず疑ってかかる作業をする必要があります。

さらに二つ目として、奇跡や偶然という飛躍する論旨を捨ててください。いつの日かは、なんともありません。なるものはなりません。その当然

たり前の考えを、しっかり持つてください。歴史学は偶然を認めていません。全てを必然で捉えるのが歴史学です。歩いていった理由、はねられそうになった原因、必ずそこに具体的な根拠があるはずですが、また、三つ目として、数字を重視した物の考え方を徹底するべきです。数字が嘘を言ったことは、歴史学の世界にはありません。しかし、人間が数字に嘘を言わせた歴史はたくさんあります。こうあるべきだ、こうでなければならぬ、と人間が数字に期待値を上乗せしてしまふのです。こうして、どんどん客観的な判断が出来なくなります。

歴史を疑ってかかる、奇跡や偶然といった飛躍する論旨を捨て、数字という最も顕著なものを身近に持つ。この三つから、歴史学はスタートするので。

歴史家・作家
加来 耕三

昭和33(1958)年大阪市生まれ。奈良大学文学部史学科卒業。奈良大学文学部研究員を経て、現在は大学・企業の講師を務めながら、歴史家・作家として独自の史観にもとづく著作活動をおこなっている。『歴史研究』編集委員。内外情勢調査会、中小企業大学校、政経懇話会などの講師。著書は『1868 明治が始まった年への旅』(時事通信社)、『幕末維新まさかの深層』(さくら舎)、『西郷隆盛100の言葉』(潮出版社)ほか多数。講演・著作活動のほか、時代考証はもちろん、テレビ、ラジオ番組の監修・出演なども行っている。

明太子はなぜ博多の名産品として広まったのか?



ふくや代表取締役社長
かわはら たけひろ
川原 武浩氏

支店がある都市として発展を続けている福岡市は、新幹線を含む鉄道、空港、港湾が整備され、九州の拠点としての役割を担っています。そして、ビジネスや旅行、帰省の土産として、定番になっているのが明太子です。

西日本支店長会11月例会は、特別例会として料亭「三光園」(同市中央区)で開催しました。講師のふくや代表取締役社長の川原武浩氏が、「明太子はなぜ博多の名産品として広まったのか?」と題して講演。パワーポイントを使いながら、ふくや創業者の川原俊夫・千鶴子夫妻の歩み、味の明太子の開発と製法公開などについて語りました。(講演日:2018年11月6日)

本日は明太子はどうして福岡から広まったかについての話をしますが、まさに支店長の皆さまのお陰です。

まず自己紹介から。1971年生まれ。博多祇園山笠では中洲流、町内会では中洲観光協会に所属。アピスパ福岡のサポーターです。

明太子の会社として知られていますが、実は業務用の食料品販売からスタートしています。その仕事をやっていく中で、明太子というヒット商品が出来て、この販売構成が大きくなり、今や明太子の会社になりました。売上高はここ数年は150億円前後、利益ベースで6億円から8億円前後です。

今日は、ふくやという「変」な会社について六つのことをお話しします。

ふくや創業者 川原俊夫・千鶴子

まず、創業者である祖父・川原俊夫と祖母・千鶴子について。2人の本籍は福岡です。祖父は韓国のプサンで生まれ、育ちました。その後満州に仕事を求めて行き、そこで結婚。戦時中で、祖父は召集により沖縄方面に派遣されました。この



創業者の川原俊夫・千鶴子夫妻

ときの戦争体験が、会社の創業の理念になっているというか、行動にものすごく大きな影響を与えています。

最終的に宮古島へ配属。沖縄本島と違い陸上戦はなかったのですが、一方的にやられ、補給も途絶えた中で終戦を迎えました。多くの方々が亡くなっています。しかもほとんどの人が餓死や病死。そんなところから幸いに生きて帰ってきたのが祖父です。

自分は生き残った命だから、その命をどのように使うか、そのためには何かの形で世の中のために生きる生き方をせねばと、サラリーマンは選択せずに商売を起しました。それが食料品店、ふくやの始まりです。始めは闇市から始まり、やがて店を持ちました。引揚者ばかりの市場が中洲にできるといって、日本新聞の広告を、祖母が見つけ、これに応募したのです。昭和23(1948)年10月にふくやが開業し

ます。

2人の戦争体験から、二つのことが言えます。一つは、世の中の役に立つことを自分の生き方として決めたこと。もう一つは、2人は韓国の生まれで、本家が福岡といっても縁もゆかりもありません。引き揚げてきた自分たちを受け入れてくれたという、博多・中洲への恩返し。この二つを持ちながら仕事をしました。

創業時には明太子は存在しません。始めは食料品をいろんな所から仕入れて販売していました。しかし、仕入れ商品はいつかどこかで誰かが見つけてくるので、オリジナルの商品にはなりません。

今でこそ中洲は繁華街ですが、店を開いた当時は焼け野原。そんなところで店を開いてもお客さまが来ない状況でした。わざわざ来てもらうためには、よその店にならぬ品物を並べなければいけない。ただ仕入れて並べても、真似をされて客足が途絶えてしまう。そんな中で、明太子の原料となる塩タラコが年末に手に入りしました。祖母がどうも好物だったようで、祖父が見よう見まねで作り始めたのが明太子の始まりです。

祖母が食べる次いでに、出来上がったものを店に並べたのが昭和

24(1949)年1月10日です。明太子の原型になった食べ物が韓国にあり、明卵漬(ミンヨンランジヨ)と言います。明卵漬を元に、アレンジをして明太子が出来上がっています。当時は塩タラコを焼いて食べるとい文化は日本にもありません。が、生で食べる、しかも辛くしたものは全く馴染みが無かったです。1月10日に、近くの方が興味本位で買っていかれたそうですが、翌日には辛過ぎて食べられないとクレームがきました。買った方は、水で洗って辛みを落としたりうえに焼いて食べたそうです。

1955(昭和30)年ごろになるとだんだん販売量が増えてきて、従業員も増え、支店もできました。とはいえ、明太子はそこまで売れていません。1958(昭和33)年ごろになると偽物が出てきたので、CIを導入して包み紙などで分かるようにしました。

味の明太子の開発と製法公開

次は、明太子の製法を他の業者に教えたという話です。一番初めに教えたのは、中洲市場の中にある業者です。昔の市場ですので看板があるわけはありません。パッと



ふくやの店頭。発売から4年が経過するも、店の片隅で細々と販売する程度。赤の矢印が明太子

見て、ここは漬物店、ここは食料品店、ここは精肉店といった具合です。そんな具合なので「入り口から入って4軒目で明太子を売っているらしいよ」という評判の立ち方になります。中洲市場にはメインとサブの入り口があり、ふくやがあったのはサブの方でした。夜8時には店を閉めていましたので、酔客が寄ってみると店が閉まっている。なのでメインの入り口から4軒目のところを試みに訪ねてみると、そこは「いとや漬物佃煮店」。いかにも明太子を置いていそうな店構えでした。ここにお客さまが来るたびに、閉まっているときはシャッターを叩き、開いているときにはお客さまを連れてきていたことか

ら、いとやの店主が「時間外だけでも商品を預かるので売らせてくれないか」という話をされたそうです。そのときに何を思ったのか、祖父が「作り方を教えるので自分のところで作つたらどうだい」ということで教えたのが始まりです。その次は、隣の店の「むかいカマポコ店」です。このころには、ふくやには行列ができるようになっていて、カマポコ店の前をふさぐようになっていました。祖父の「むかいさん」も作つてみたらしいです。中洲市場の中で3軒の店が明太子を作り始めたのが、昭和37(1962)年のことです。

苦勞して作り上げた明太子の作り方を、ある意味気楽に教えてた祖父ですが、まだ続きがありません。鳴海屋という食材を扱う同業の方と仲が良かったことから、こちらも作り始めました。「きくや」「内堀商店」は、ふくやに勤めていた従業員が独立して始めた店です。

「山口油屋福太郎」は、最近ではせんべいのめんべいで有名な会社です。こちらは教えたというよりは、最近明太子が売れているというところで自分で作られ始めました。「やまや」はふくやに原料を卸していた原料店から独立された方です。

「かねふく」も同じく原料をふくやに納めていた会社で、明太子を作り始めました。

これだけ明太子が広まっていったきつかけは、昭和50(1975)年、山陽新幹線の全線開通です。ふくやの年商は、この年に6億円ほどに成長し、昭和52(1977)年には15億円。このあたりから急激に売り上げが伸びていきました。

業者の数も、山陽新幹線の全線開通を機に増加しました。「福さ屋」料亭の「稚加榮」、昆布漬の「かば田」、最近はお汁で有名な「茅乃舎」の「椒房庵」など次々とできました。

明太子が全国区になった理由は、三つあります。一つは製法を公開したことにより、作る業者が増えて市場を形成したこと。新規参入した業者は違った味付けや販路を開拓したことで広がりました。

次は、支店長の皆さまのお陰です。福岡は支店経済の都市。その中で土産品として使っていたことが、福岡から全国に広まった大きな原動力です。

三つ目は、参入と撤退という偶然がありました。「モランボン」という焼き肉のたれで有名な会社がありますが、1年間だけ明太子を販売したことがあります。それも全

福岡や博多がそうならないとは限りません。そういうこともあつて、地域に対してお金や時間を使つて向き合つていくということが会社の使命の一つと考えています。地元のスपोर्टス応援では卓球の早田ひな選手。北九州出身で、オリンピックを目指しています。企業の再生では、福岡サンパレスや胡麻焼酎の紅乙女酒造を手掛けています。

ふくやでは、「明るく大きな子育てでキャンペーン」を行っています。福岡県内で生まれたお子さま全員に明太子をプレゼントするキャンペーンです。母子手帳を持ってふくやの店舗に行けば、3歳になる前の日までは受け取れます。マーケティングに使うわけではありません。単純に福岡の人口が増えるのとありがたいというキャンペーンです。

地域貢献で、なぜかビルを三つ持つことになりました。「中洲Fビル」という国道道路の角にあるビル、それから中洲の真ん中ぐらいに1階がケーキ店の「中洲Uビル」があります。それと櫛田神社前の「ふくやビル」です。

投資物件として買ったのではなく、それぞれ理由があつて買った、運営しています。櫛田神社前の

国のテレビCMでプロモーションをかけて一気に売り出したのです。ただ、規模が大き過ぎました。原料を北朝鮮から入れている、1年で原料が取れなくなったことから撤退されました。

もう一つ大きかったのが微粉のトウガラシを調味料として使い始めたことです。当時は荒く切ったトウガラシがほとんどでした。たまたまふくやがトウガラシを仕入れた会社が、トウガラシ店というよりはカレー粉店だったので。トウガラシを細かくひくという技術を持つていて、複数のトウガラシを混ぜることによって、香り、味わい、甘みのような複雑な味を表現できるものが出来上がったのが、明太子開発の大きな要因です。作り方の基本的なことを伝えながら、味付け、売り方が違うことで広がっていきました。

納税と地域貢献

ふくやは、地元では地域貢献とか納税といった文脈で語られることがありません。なぜかと言いますと、創業者の趣味だったからです。「趣味は納税」と言つてはばからぬ祖父でした。夢は福岡市で一番の納税者になること。会社は、祖父が



中洲Uビル

ビルは、「山笠が良く見えるから買った」とよく言われるのですが、実はそうではありません。まだ祖母が生きているときに、マンション業者が高層マンションを計画していました。「神社の建物より高いものを前に建ててはいかん」と祖母が、私の父に言いました。なんと十倍付けをして購入し、自社で建てました。私は会社に入つて、この簿価を見たときに腰が抜けました。なんでこんなに高い土地なんだと。あとあと話を聞くと、理由が分かりました。

このふくやビルの中に、博多伝統芸能館という地域の伝統文化継承の稽古場兼発表の場を設けています。博多券番の事務所と稽古場

亡くなるまであえて法人化せず、個人事業のまま営業していました。なぜかという、その方が税金が多く納められるからです。それというのも戦争で生き残つて帰つてきた人間。世の中のために一番役立つのは納税という思いがあつたようです。

昭和54(1979)年の売上高は27億8000万円、事業所得は2億5000万円。個人事業です。事業所得にまるまる課税されません。その当時の所得税と住民税の合計、最高税率は93%です。当時は個人で事業をしていても、全く手元にお金が残らない税率の時代でした。ただ、それを喜んで納めていたのが祖父です。

この年に望み通りといいますが、納税額で福岡市の1位になります。個人所得が2億円ぐらいい。納税額が1億7300万。3400万円ほど残るはずなんです。ほとんど残りが無いような状態でした。これで事業をやつていたので、基本的に資金繰りは自転車操業。規模が大きだけで、ひたすら仕入れて、売つて、払いの繰り返し。祖父が亡くなった後に、私の叔父が跡を継いだのですが、とにかく支払いに回すはずのお金どこにもないということで、葬式が終わる

もここにありません。中洲Fビルは1階にシャッターが下りている部分があります。駐車場ですが、博多祇園山笠のときの集会、直会の会場として使われています。中洲Uビルは2階まで吹き抜けになっていきます。万が一、山笠が外で小屋が造れなくなつたときのために、山笠を入れることができるようにしたものです。

そういう話をすると地域貢献社会貢献を主眼に置いている会社のように聞こえますが、そういうことをやるためには利益を出すことが絶対的な使命です。祖父は「利益を出さん会社はいかん。納税をしていない」と言っていました。納税をしたうえで、余剰な利益を企業成長や地域のために使う。儲けることは悪くない、使い方が問われるという事です。

それから、明太子が売れるのは地域のお陰です。自分の商品や腕で売れていると思う。一番根っこにある地域ブランドがなければ、商品なんて売れない。そういうことを肝に銘じて仕事をさせていただいています。

ふくやという「変」な会社

ふくやの変なところをまとめ

と真つ先に銀行に飛んでいつて、月末の決済資金を借りに行ったそうです。夢をかなえて昭和55(1980)年、67歳で祖父は亡くなりました。

そういった会社です。創業者の思いを継いでいます。法人化してもきちんと納税をすること。地域や社会に貢献すること。それを安定して続けていくこと。この三つを守ることで、個人商店を株式会社に転換しました。

ふくやはいろいろな地域貢献をやつています。もちろん中小企業なので、実際の額にすればたいした額ではありません。どうして地域貢献をするのかと言えば、創業者夫妻が受けた恩を忘れずやっていたからということ、福岡や博多、中洲というブランドを使つて商売をしていくこと。キャリアクターを使つて商売をする。ロイヤルティが発生しますが、なぜか地域ブランドにはお金は払わなくていいとなつていきます。不思議なことです。

街にはイメージがあります。九州の温泉では長らく由布院が圧倒的にブランドが高かつたのですが、やはり地元の資本でないところが、いろんな商売を始めて行く中で、黒川の評価が高くなりました。

すと、こんな三つになります。

一つは元祖や本家と言わない。明太子は創業者の祖父が作つて広まつたものですが、そのときに一番おいしい店がナンパーンという考え方です。始めに作つたから偉いわけでもありませんし、時代時代の中でお客さまに受け入れられなければ、なんの価値もないということです。業界で元祖や本家を争い始めると商品のカテゴリー自体がだんだんいやなものになっていきます。どつちが始めたというよりも、どつちが今お客さまに受け入れられているのが重要です。そのためにも、日々頑張り続けなければいけないということです。

特許は権利を保護するものです。した方がいいと思つています。明太子の製法を公開したときは、牧歌的な時代です。後から横取りをして乗っ取られることはありませんが、基本的には公開していつて、いろんな人の力で事業化を成長させていくという考え方をしています。

通信販売を始めたのも早い時期です。コールセンターの見学とかもフリーにしてみました。福岡は通販の企業が多いと言われますが、その要因の一つと言われることもあります。

「めんたいびりり」

「めんたいびりり」についてお話しします。2013年8月に、創業者をモデルにしたドラマを制作し、テレビ西日本で放映しました。企業PRのためではなく、地域の文化貢献の一環としてやりました。

それは何かと言いますと、福岡の地元による人材でドラマをつくれなかつた。それによつて地域の文化産業を振興させていくことができるのではないかと。テストケースのようなものです。芸能界で福岡会というのがあるくらい、芸能界の方は福岡出身の方が多い。芸能に限らず、音楽や演劇と、いろんな才能を持つている方が福岡にはいるはずですが、地元でそういった仕事がないのです。産業として成立しているのは東京と大阪しかない。

出身者がいるのに、福岡でつれないことはないだろう。東京で活躍している福岡出身の人や、福岡で活動を続けている人、その人たちをまとめてコンテンツをつくらうとしたのが、「めんたいびりり」の一つ前に制作した深夜ドラマです。ここでテストをして、そこそこのものはつくれそうだからということになり、つくつたのがドラマ



2013年8月、テレビ西日本で放映したドラマ「めんたいびりり」

「めんたいびりり」です。

お陰さまで好評を博し、深夜とはいいながら全国でも放送をしていただき、続編、ドラマのパート2をつくり、2015年3月に博多座で劇場版を上演しました。

ドラマ、舞台の後は映画だろうという話になりましたが、なかなかまとまりません。やっと2018年2月に映画をつくることになり、制作発表をしました。同時に小説も出版されました。2019年1月11日、福岡県で先行上映です。全国ロードショーは1週間後の1月18日です。映画は1月に公開されますが、3月には博多座で舞台が予定されています。

予告編に出ていた山笠のシーンのロケは昨年3月に行っています。たいへん寒なかでの撮影でした。とはいいながら、リアリティーを出すことが必要です。当然みんな

水をかぶりました。映画の試写を見たなら、そういうことが気にならないうつぼい雰囲気が出ています。

ドラマ、映画は、企業の宣伝の部分が全くないといえませんが、基本的には地元の産業振興、文化振興を考へて取り組みました。映画にする意味は、ドラマと違つて映画はうまくヒットするともう一回つくることができます。ドラマは基本的に製作費が出ていくばかりですが、映画の場合は収入があり、30万人ぐらゐの人に見ていただけると、パート2が作れたり、他のコンテンツに対してお金を回しているのではないかとこの夢を見たいです。

最近の映画業界はシビアで、1週目の興行成績が悪いと2週目がありません。1月11日の週に映画館に行つてくださるとうれしく思います。

「博多伝統芸能館」

最後に、「博多伝統芸能館」について。ふくやビルの1階にあります。博多の伝統芸能はいろんなものがあります。博多独楽や筑紫舞、博多仁和加などの方たちに、ここを使つてもらつています。榎田神社はインバウンド、外国人のお客さま

が大変多くなつていきます。近くにあり博多町家ふるさと館と博多伝統芸能館、それに榎田神社を合せて、ゆつくり1時間、2時間を過ごしていただければと思つています。

博多の芸妓さんは昭和12(1937)に4券番で880名ほどでしたが、太平洋戦争の戦時体制で券番は消滅しました。その後、昭和60(1985)年に、すべての券番が博多券番となり、現在は18名の芸妓さんが活動しています。12月に博多座で博多をどり毎年催しています。こちらにも、ぜひ足を運んでいただけたらいいんうれしく思います。

ふくや代表取締役社長 川原 武浩

1971年生まれ。修猷館高校、國學院大學法学部卒業。博多座勤務を経て、2004年ふくや入社。コンサルティング会社へ出向後、関連会社の福岡サンパレスへ出向し社長に就任。その後、ふくや取締役統括部長、取締役副社長を経て、2017年より現職。趣味は演劇とアビスパ福岡サポーター。

伝統文化に触れた懇親会
8名の芸妓と半玉4名がおもてなし

11月は4回目となる特別例会として、博多伝統文化の良さに触れようと二部構成で開催。

川原武浩さんの講演の後、8名の博多券番芸妓と半玉4名の計12名を交えて、老舗料亭「三光園」の料理を楽しみました。参加会員は例年を大きく上回る78名でした。

開会冒頭、お祝い舞の披露があり、皆さんは舞台の芸妓さんにくぎ付けでした。お祝い舞の後、タカラスタンダード常務執行役員福岡支社長で西日本支店長会上谷隆会長より挨拶と乾杯の発声で会はスタート。皆さんは、芸妓さんからお酒を注ぐもてなしを受け、ツーショット写真を撮つてもらつたりしてにぎわいました。

2度目の舞披露では、芸妓の皆さんが全員そろつての、日本一になったソフタバリンクホークスの応援歌「いぎゆけ若鷹軍団」に合わせた舞が圧巻で、大いに盛り上がりしました。

中締めは恒例の博多祝い

唄三番と博多手一本です。一番を副会長で梓設計の前田さん、二番を幹事で加賀電子の渡邊さん、三番を新聞社の大久保取締役営業本部長に、そして博多手一本は、副会長でジュピターテレコムの前田さんに見事にいらしていただきました。4回目の三光園での特別例会懇親会、参加の皆さんは満足されて帰路につかれました。

博多芸妓について

江戸中期から発展してきた博多伝統芸能を守り続ける博多芸妓。最盛期には2千人を超える芸妓でにぎわつた博多でしたが、戦後は年々減少。現在は立方(たちかた・踊り手)と地方(じかた・演奏者)を合わせて18名ですが、少数精鋭で芸に精進しています。

宴席の他にも、1月の十日恵比須「かち詣り」で始まり、5月の「博多どんたく港まつり」への参加、終わるとすぐに稽古に入るといふ12月の博多座で行われる「博多をどり」と1年を忙しく過ごしています。





第8回 県外視察研修「壱岐市」

2011年の九州新幹線鹿児島ルート全通を記念して始まった西日本支店長会課外活動「県外視察研修」は、初回の鹿児島から、熊本県、長崎県壱岐市、大分県、宮崎県と一周し(※)、一昨年から二週目に入り、今年の視察研修は8回目として10月23日、24日に壱岐市で実施しました。

※研修地は、支店長会に加入していただいている自治体です。

長崎県壱岐市は、博多港より高速船で約1時間と福岡とは密接な位置関係にあり、自給自足の島から食材の宝庫と呼ばれています。また、古代からの歴史が今も色濃く残り、豊富な自然遺産から「実りの島・壱岐」と称して、全国へ発信されています。そのような魅力ある壱岐の、行政の取り組みや産業、歴史、文化、自然などを視察研修し、食も堪能してきました。充実した視察研修ができるよう、壱岐市福岡事務所長の若宮 廣祐氏と藤原 淑子氏、壱岐市観光連盟の係長 高城 裕美氏が、企画段階から視察場所と綿密な打ち合せの上、最高の研修行程を作り、2日間のお世話をして頂きました。

◆ 10月23日(火) ◆

ベイサイドプレイス博多発！ いざ壱岐の島へ

朝10時、皆さんがベイサイドプレイス博多内のターミナルに集合し、視察研修のキックオフとなりました。

た。10時30分発の高速船ジェットフォイルで芦辺港まで約1時間、速いものです。芦辺港に着いたらあいにくの雨。一行は、視察の足となる専用のバスに乗り込みました。出迎えていただいた観光連盟の高城さんより「予定していたシーカヤック体験を、雨のため、松永安左エ門記念館見学への変更」と視察行程の説明がありました。バスガイドは、若宮所長ご指名のベテラン、佐野美津伊さん。佐野さんのお話しが元気で楽しくユーモアたっぷり、2日間バス内では笑いがいっぱいでした。

鮭割烹 曾根にて 壱岐の鮮魚を堪能

壱岐の活き(イキ)の良い刺身定食に舌鼓(笑)。食後の時間を利用して、参加者それぞれが自己紹介をしました。調理してあった謎の魚が話題になり、お店に聞くとサメでした。壱岐では、サメ料理は当たり前だそうです。

壱岐の蔵酒造を見学

壱岐焼酎発祥の地といわれる壱岐の蔵元の一つです。壱岐焼酎は、大麦と米麴を2:1の比率で仕込むため、米の甘みとうまみが加わった麦焼酎です。その壱岐焼酎の製造過程を見学しました。アルコール発酵が進んで泡が浮かぶもろみの様子や大きな蒸留器、タンクや榎樽に入れて貯蔵されている様子は見応えがありました。甘いアルコールの香りが漂う中での見学後はお楽しみみの試飲コーナーへ。飲み放題です、との説明にドツと笑いの声。お土産もいっぱい買いました。



松永安左エ門記念館で見学

明治8年、現在の壱岐市石田町で生を受け、少年期を過ごした、松永安左エ門翁の記念館を見学しました。「電力の鬼」と称された安左エ門

翁が残した業績が、今日の日本が「世界の経済大国」と言われるまでに成長した功績の一端を担っていたといえます。

生家や福博の路面電車展示、記念展示室、旧土蔵展示室、杉山吉良フオトギャラリーなど見応えがあるだけでなく、館長(定村隆久氏)の案内が素晴らしく、大きな感動を受けた見学でした。



原の辻ガイダンス見学後、壱岐テレワークセンターで白川博一壱岐市長との交流会

視察研修のメインでもある壱岐市との交流会。上谷西日本支店長会長の開会挨拶で交流会が始まりました。白川博一壱岐市長から歓迎の挨拶をいただき、続けて企画振興部の本田部長より挨拶と壱岐市の事業概況の説明を受けました。そして「壱岐ごとサポートセンター！ I k i : B i z」森俊介センター長

から「行列のできる」こと相談所で究極の島おこしにチャレンジ」と題したお話しをいただきました。

森センター長は、過去最高倍率(391人応募)の中から選ばれた最年少センター長。「森の図書館」創設者としても有名です。魅力ある具体的な島おこしチャレンジ事例を紹介いただきました。

白川市長を囲んでの懇親会

市長を囲んでの懇親会です。5年ぶり2回目となります。小金丸益明 壱岐市議会議長にも臨席いただき、開会前に挨拶をいただきました。



乾杯の発声は、西日本支店長会副会長の河野健吾さん。壱岐市条例のとおり壱岐焼酎で乾杯しました。壱岐市と壱



岐市議会からいただいた七つの蔵元の焼酎と、壱岐の日本酒「横山五十」を堪能しながら有意義で和やかな時間を過ごしました。中締め挨拶は、同じく副会長の前田隆さん。自称「壱岐フリークの前田さん」から挨拶のなかで、壱岐の名所や名産などの紹介があり、その詳しくに脱帽の笑いがあがりお開きとなりました。懇親会後は、塞神社でお参りをし、二次会へ。それぞれの持ち歌をカラオケで披露して大盛会となりました。

◆ 10月24日(水) ◆

晴天のなか城山公園

勝本城は、豊臣秀吉が朝鮮出兵するにあたり海上の中継地として築城し、現在石垣だけが残っています。展望台からは辰の島や勝本湾が一望でき素晴らしい景色でした。

壱岐フリークの前田さんも



こは行ったことがなかったそうです。バスへ戻る途中、飲料水を買う方が。前夜、飲み過ぎたのでしょうか。

勝本港朝市散策

壱岐フリークの前田さんの推薦で、予定には無かった朝市散策。海産物を買ったり、特に評判の下條ジャムはほとんどの方が購入されました。



辰の島遊覧

船に乗って、辰の島周辺を遊覧しました。海の宮殿、マンモス岩、さざえ岩など珍しい岩を巡り、50坪の断崖を縦に切り裂いたような蛇ヶ谷など、荒波が浸食し長い年月をかけて出来た断崖絶壁とエメラルドグリーンに輝く透明な海を堪能しました。

黒崎砲台跡・猿岩

第二次大戦時、対馬海峡を航行する艦船を攻撃する目的で設置さ

れた巨大な砲台跡地です。普段は地下に潜り、海上からは見えない構造でした。一度も発射されずに、終戦後解体されました。現在は跡のみが残る戦争遺産です。



猿岩は、黒崎半島の先端にあり、高さ45坪海蝕崖の玄武岩で横を向いた猿にそっくり。壱岐を代表する観光スポットです。

昼食・国民宿舎 壱岐島荘

壱岐牛の焼肉定食。壱岐牛の美味しさに、皆さんあらためて感激していました。窓から見える海もきれいでした。

一支国博物館／原の辻遺跡 王都復元公園 見学

中国の歴史書『魏志倭人伝』に「一支国(いきこく)」と記された壱岐。古代日本を物語る貴重な資料が島内から多数出土していますが、これらを一堂に展示しているのが一支国博物館です。世界的建築家、故黒川

紀章氏がデザインを手掛けており、周囲の山並みに沿って曲線を描く天然芝の屋根が印象的です。国指定特別史跡「原の辻遺跡」を望む丘の上に建ち、常設展示室では



東アジア(中国・朝鮮半島)と日本の歴史を比較することで、グローバルな視点から壱岐の通史を紹介しています。展示資料は約2000点あり、そのうち100点の実物資料に触れることもできる展示演出は全国的に珍しいため、来館者に好評です。また、弥生時代の二支国・原の辻を表した巨大ジオラマと160体のミニチュア人形は、当時の生活の様子



が生き生きと再現されており、子どもにも大人にも分かりやすくおすすめです。この博物館は長崎県埋蔵文化財センターを併設しているため、子どもたちが発掘模



擬体験などできる「キッズこうごがく研究所」や、豊富な出土品は「オープン収蔵庫」として高さ5坪のガラス越しに公開するなど、新しい試みを取り入れて多機能な施設として親しまれています。

バスで移動して、博物館から見下ろせた原の辻遺跡王都復元公園へ。壱岐の古代からの歴史と古代人の知恵に驚きました。

どちらも、学芸員の松見裕二さんの素晴らしい解説で分かりやすかったです。

あまごころ壱岐 (市場・お買い物ものセンター)

皆さん、最後のお買い物。たくさ



ん買い物をしたため、帰りの船での置き場に困るほどでした。バスに乗って、河野副会長からお疲れさまのご挨拶をいただきました。

郷ノ浦港出発、博多港で流れ解散。お疲れさまでした

大変有意義だった視察研修「壱岐市」も無事終了し帰路へ。

若宮さん、藤原さん、高城さんのおかげで素晴らしい視察研修となりました。あらためて御礼申し上げます。

壱岐市視察研修参加者

(役員以外は氏名五十音順、敬称略)

氏名	社名	役職名	支店長会役職
上谷 隆	タカラスタンド(株)	常務執行役員福岡支社長	会長
河野 健吾	鹿島建設(株)	常務執行役員九州支店長	副会長
前田 隆	(株)梓設計	常務取締役執行役員九州支社長	副会長
栗原 勇人	新日鉄興和不動産(株)	福岡営業部長	幹事
波多江 裕之	大和不動産鑑定(株)	常務取締役	幹事
溝之上 正充	日本航空(株)	九州支社 九州・山口地区支配人	幹事
吉原 毅	(株)IHI	九州支社長	幹事
渡邊 孝樹	加賀電子(株)	福岡営業所長	幹事
大林 一裕	コクヨマーケティング(株)	執行役員九州支社長	監査
三浦 智彦	(株)船場	九州支店長	監査
石塚 慎二	日本メックス(株)	取締役九州支店長	
太田 禎郎	(株)ホテル日航福岡	代表取締役社長	
河村 隆司	三井不動産(株)	九州支店長	
小南 雅彦	JR西日本不動産開発(株)	取締役福岡支社長	
嶋津 雅彦	三井物産(株)	理事九州支社長	
副枝 敏宏	基礎地盤コンサルタンツ(株)	九州支社 営業部長	
羽鳥 歩	新日鐵住金(株)	九州支店長	
福村 剛	NTT都市開発(株)	九州支店長	
細谷 茂	(株)第一ビルディング	九州事業所長	
流郷 一宏	日本信号(株)	九州支店長	
若宮 廣祐	壱岐市福岡事務所	所長	
藤原 淑子	壱岐市福岡事務所		
西山 健郎	西日本新聞社	西日本支店長会事務局長	



2018秋の西日本新聞ゴルフ会 成績表

(敬称略)

賞	氏名	会社名	所属
優勝	宇山 寿秀	三井物産	西日本支店長会
準優勝	深水 秋光	ミナミ商事	パートナーズクラブ
3位	前田 隆	梓設計	西日本支店長会
4位	山下 洋史	ナショナル土地	政経懇話会
5位	東 隆 介	平和不動産	西日本支店長会
6位	渡部 一也	総合メディカルホールディングス	政経懇話会
7位	北 英一郎	宮崎商店	政経懇話会
8位	成田 憲 泰	山下設計	西日本支店長会
9位	米村 公 秀	東洋インキ九州	西日本支店長会
10位	上田 哲 也	ダイドードリンコ	西日本支店長会
24位(西日本新聞社賞)	北村 直 樹	アサヒビール	西日本支店長会

「2018秋の西日本新聞ゴルフ会」賞品提供社(五十音順)

- アサヒ飲料 九州支社
- アサヒビール 九州統括本部
- 味の素AGF 九州支社
- イースタンススポーツ 博多スターレーン
- 伊藤園 福岡支店
- ANAクラウンプラザホテル福岡
- 江崎グリコ 九州菓子食品統括支店
- エフ・ジェイホテルズ グランド・ハイアット・福岡
- 大分県 福岡事務所
- 大塚製薬 福岡支店
- オンワード樫山 福岡支店
- 加賀電子 福岡営業所
- 鹿児島県 福岡事務所
- カゴメ 九州支店
- キッコーマン食品 九州支社
- 麒麟ビール 九州統括本部 福岡支店
- 麒麟ビバレッジ 九州地区本部
- 熊谷組 九州支店
- 熊本県 福岡事務所
- グリーンランドリゾート
- 月桂冠 九州営業部
- サッポロビール 九州本部
- Sansan
- ジュビターテレコム 九州・山口ブロック
- 商船三井フェリー 九州支社 博多支店
- 西研グラフィックス
- 全日本空輸 九州支社
- ダイドードリンコ 西日本第二営業部
- タカラスタンダード 福岡支店
- 西鉄ホテルズ
- 日本航空 九州支社
- 日本製紙 九州営業支社
- 日本たばこ産業 九州支社
- ニューオータニ九州 ホテルニューオータニ博多
- ネスレ日本 九州支社
- 博多エクセルホテル東急
- 博多座
- 福岡昭和タクシー
- 福岡ソフトバンクホークス
- ホテルオークラ福岡
- ホテル日航福岡
- 丸住製紙 九州支店
- 三好不動産
- 明治 西日本支社
- 森永乳業九州 営業本部
- モロゾフ 福岡支店
- 若宮ゴルフクラブ

西日本支店長会

パートナーズクラブ

西日本政経懇話会

2018秋の西日本新聞ゴルフ会

西日本会に所属する団体が一堂に会して行う「西日本新聞ゴルフ会」を11月24日(土)、福岡県宮若市の若宮ゴルフクラブで開催しました。「西日本支店長会」「パートナーズクラブ」「西日本政経懇話会」会員の交流懇親の場として毎年11月に開催しています。

20組79名の参加で、自慢の腕を競い合いました。晩秋の晴れたゴルフ日和のなか、若宮ゴルフクラブ名物の高麗グリーン攻略に苦戦しながらも、皆さんプレーを楽しみました。プレー終了後は、パーティー・表彰式までの時間を利用したワンポイントレッスンを実施。綿合俊郎プロからアプローチの手ほどきを受けました。

パーティー・表彰式は、柴田西日本新聞社代表取締役社長の開会挨拶と乾杯の発声で始まりました。

今回も、会員社に賞品提供のお願いをしましたところ、豪華賞品を多数提供していただきました。披露すると、会場から大きな拍手が上がりました。栄えある優勝は、西日本支店長会所属で三井物産の宇山寿秀さんでした。ベストクロス賞は、西日本政経懇話会所属で宮崎商店の北英一郎さんで、アウト40、イン43の83という素晴らしいスコアでした。多くの会員社様から賞品の提供をいただいたお蔭で、参加者もめれなく賞品を持ち帰られました。誌上を借りて厚く御礼申し上げます。

今回は春のゴルフ会として、西日本支店長会とパートナーズクラブ合同で、来年5月25日(土)福岡カンツリー倶楽部和白コースで行います。保険の窓口レディース杯の翌週の土曜日です。女子プロが競い合った臨場感を感じながら楽しんでいただきたいと思います。



九州人 走る

九州人が、一直線に奔る。
目的のため、がむしゃらに奔走する。
時代を超え、壁を破り、走り抜いた人びと
その軌跡を辿る。

薩軍に参加、西郷と行動を共にする 村田 新八 (1836~1877)



西郷と行を共にする「解せない心情」持つ二人と言えよう。
村田は岩倉具視の遣欧米使節団に加わり、産業革命後の欧米をつぶさに観察している。この使節団に参加した大久保利通はじめ主要メンバーが、帰国後、征韓論の西郷を追放した。村田は大久保から厚い信頼を得ており、勝海舟なども「大久保の跡を継ぐのは村田」と断言するほど、知仁勇の三徳を備えた人物として高く評価していた。

喜界島に島流し

明治政府で、新しい日本を創る人材として期待していたながら、なぜ、西郷反乱軍に参加し、果たしたのか。なかなか解けない疑問だ。

三徳を備えた人物

村田新八もまた、小倉処平と同じ近代的精神を抱きながら、

薩摩に帰郷した西郷が決起したことを知った村田は、「西郷本人から意見を聞きたい」と急ぎ、鹿児島に向かった。村田はそのまま薩摩に参加、最後の最後まで西郷と行動を共にする。鹿児島市加治屋町の生まれ。幼くして村田十歳の養子となる。幼いころから西郷に兄事、尊皇思想と日本の生まれ変わり

シルクハットにフロツクコートで従軍

西郷に影のように寄り添う

に献身する生き方に強い影響を受けていた。心中、「西郷を宰相に」と心を決めていた、という。

禁門の変、鳥羽伏見の戦い、戊辰戦争と常に西郷の傍にあって、行動した。島津久光に2度島流しされた西郷だが、村田も喜界島に流された。赦免された西郷は、独断で喜界島に寄り、村田を鹿児島に連れ帰った。

西郷の自刃後、自らも自刃

若いころ、大久保らがリードする過激な誠忠組に属してはいたが、突出した行動からは距離を置き、どこか冷めたところがあった。薩長連合など維新の節目、節目に、西郷の裏役を演じ、事を進めた。

維新後、新政府の岩倉使節団に参加しながら途中から離れ、独自にパリに留学、オペラ座に通い詰めた。有名なのは、米国で購入したアコーデオンを愛好し、シルクハットにフロツクコート of the 伊達姿。西南戦争の戦場でも手放さなかった。

城山での最後の突入に当たって、アコーデオンを焼き、西郷の自刃の後、村田も自刃した。

|| 敬称略(久保平)



幕末の薩摩藩の武士たち。左から大久保利通、森山新蔵、小河一敏、村田新八、西郷隆盛、筑前福岡藩士・平野国臣と推測されている

村田 新八

西郷宿陣屋 (延岡市)

西郷が、最後の軍議を行った陣屋が資料館として保存されている。座敷には西郷を中心に薩軍幹部の「人形」が作られ、軍議の様子が再現。村田は右端に端座、静かに議論を聞いている。恐らく、積極的に発言はしなかったのだろう。村田はこの戦争で息子を戦死させた。「あれもいい死に場所を得た」と一言、つぶやいたという。

ゆかりの地

南洲神社・西郷墓地 (鹿児島市)

長い石段を登ると、西郷を中心に、薩軍戦没者の墓が並ぶ。村田の墓は西郷の右、2番目。勢いのある「村田新八」の墓碑銘が印象的だ。左には桐野利秋ら。今も、西郷の墓前で手を合わせる人が絶えない。2023人が葬られ、墓標が西郷を中心にびっしりと並ぶ。